

平成19年 1月

坂本照尚 学位論文審査要旨

主 査 村 脇 義 和
副主査 井 藤 久 雄
同 池 口 正 英

主論文

Interleukin-10 expression significantly correlates with minor CD8⁺ T-cell infiltration and high microvessel density in patients with gastric cancer

(胃癌患者におけるインターロイキン-10発現は腫瘍内CD8陽性T細胞の減少と微小血管増生に有意に相関する)

(著者：坂本照尚、齊藤博昭、建部 茂、辻谷俊一、尾崎充彦、井藤久雄、池口正英)

平成18年4月 International Journal of Cancer 118巻 1909頁～1914頁

審 査 結 果 の 要 旨

本研究は胃癌組織におけるIL-10蛋白発現と腫瘍組織内リンパ球浸潤、腫瘍内血管新生、患者予後との関係を免疫組織学的に検討したものである。その結果、IL-10蛋白発現を認めた胃癌組織では、腫瘍組織内のCD8⁺Tリンパ球数が低く、腫瘍内血管新生が亢進した状態であることが判明した。即ち、胃癌細胞におけるIL-10発現は担癌生体の免疫応答を抑制し、腫瘍血管を新生し、転移促進に働くものと推察された。これらの結果は、胃癌組織におけるIL-10蛋白発現の測定が、胃癌の悪性度予測につながる可能性を示唆したものであり、胃癌臨床の分野で明らかに学術水準を高めたものと認める。